

北小まつり

6月26日(金)の3,4校時に子どもたちが楽しみにしていた「北小まつり」がありました。テーマとねらいは次の通りです。

- 1 テーマ 「チームワークを生かし たくさんの北小っ子と仲良くなろう」
- 2 ねらい

- ①全校みんなで楽しいときを過ごし北小への愛校心を育(はぐく)む。
- ②学級での取り組みをとおり、集団の力を高め、仲間と力を合わせて活動することの大切さを学ぶ。 活動を通し、お互いの良さに気づく。

「北小まつり」の内容を簡単に説明します。1年生から6年生までの各学級がふれあいランド(お店)を準備します。ふれあいランドの会場は教室や体育館、特別教室などです。各クラスでは次のようなふれあいランドを考えました。

学年・組	会場	題名
1年	教室	二人でキャッチ
2年1組	教室	ペットボトルひっぱりレース
2年2組	図工室	ふうせんをはこべ
3年1組	教室	二人三きやく
3年2組	教室	射的
4年1組	教室	新聞ジグソー
4年2組	体育館(入口)	サッカー ストラックアウト
5年(赤)	プレイルーム	迷路
5年(白)	体育館	ボール運び
6年1組	家庭科室・理科室	すごろく
6年2組	体育館	ピンボコ3ミッション

祭りでは、お店番(来店する人にゲームの説明をする人)とお客(色々なふれあいランドを回りゲームに挑戦する人)に分かれます。お店番とお客が交代するため、祭りは前半と後半に分かれています。

終わりの会では2年生と4年生児童が、楽しかった北小まつりの感想を満面の笑顔で話していました。講評では教頭先生から、「4月から昨日まで、欠席者0の日はなかったです。ところが、今日、初めて欠席者0になりました。とても嬉しいことです。」という話がありました。養護教諭の青木先生からも、今日はみんな元気で具合が悪いと保健室に来た子はいませんでした、という話を聞きました。このように子どもたちがとても楽しい時を過ごした「北小まつり」でした。

体育館でのピンボコ3ミッション



「すごろく」にチャレンジ



会話力に自信ありますか

先日、保護者の方から、「学校だよりを楽しみに読ませていただいています。親子の会話の大切が分かりました。会話力を高める方法はあるのですか。」といった内容のお話がありました。(学校だより NO 8 の裏面のことかと思えます)

「会話力を高める方法」と問われると、私自身困ってしまいます。私たち教員は話をするのが仕事ですが、それ程、会話力に自信があるわけではありません。特に、私など子どもの頃から引っ込み思案で話をするのは苦手でした。(今でも人前で話をするのはあまり好きではありません)ですから、逆に、どうしたら上手に話ができるか、ということは常に関心事でした。

何年か前(2年程前でしたか)NHK テレビ「ためしてガッテン」で会話力を取り上げていました。ご覧になった方もおいでになったかと思えます。興味深い内容でしたので、幾つか紹介することで皆さんの会話力向上のお役に立てば、と思えます。

1 ミラー・ニューロン仮説(直訳すると かがみ神経仮説 イタリアの心理学者の説)

これは、人は相手の表情に合わせて対応するという理論です。今、Aさんが笑顔でBさんに話しかけてきました。すると、応対するBさんは自然に笑顔で話し返すというものです。このようにして両者の間に会話が成立し自然な共感が生まれてくるというものです。この時、Aさんの笑顔に対しBさんが仏頂面で対応すると、両者の話はそれ以上続かなくなり話が行き詰まってしまいます。人は、ことばだけでなく表情、雰囲気、声色などがとても大切、ということのようです。テレビでは、会話の弾んでいる若い男女のペアーに対し、一方(実験では女性側)に笑顔をやめるよう指示を出します。するとたちまち両者の会話がぎこちなくなりました。

2 ミラー・リング

これは、話し合っている両者の溝を早く埋め、良好な人間関係を作る方法です。方法としてはAさんが言ったことばをBさんが反復(繰り返す)してあげるというものです。例えば、

A「学生時代、私は東京に住んでいて、三畳一間の狭い部屋に住んでいました。」

B「学生時代、東京に住んでいたのですか。」

Bさんは、Aさんが言ったことばの中の1つを取り上げ、繰り返します。このことにより、Aさんは自分の言ったことばがBさんに受け入れられたと考え、相手に親しみを感じるようになります。

3 自己開示の返報性(じこかいじのへんぼうせい)

これは、お天気の話題のような当り障りのない内容から、話し手が急に自分のプライベートな話題を切り出すことです。すると、聞き手は(深層心理としては、相手が自分を信頼してこのような内容の話をしてくれたと考えた結果なのですが、実際にはそのようなことは意識せず会話の中で自然に)自分もプライベートな内容の話をするようになり、両者の間の親密感が増すというものです。

以上のような放送内容でした。でも、「聞き慣れないカタカナことばはどうも苦手」という方には、わが国に昔から言い伝えられている、「話し上手は聞き上手」とか「上手(適切)に相槌を打つ」ということばを今一度思い起こしても良いでしょう。これらも結局は、同じことを言っているように思います。

今、NHKテレビの放映内容から会話によって成り立つ人間関係について考えてみました。このことは親子関係でも同じかと思えます。いつも眉間にしわを寄せ渋面をつくり、子どもと接するのではなく、柔和な笑顔で接することで、親子間の人間関係が今以上に好転し、理解が深まることは多いものです。わが国には次のようなことわざもあります。「笑う門には福来たる」